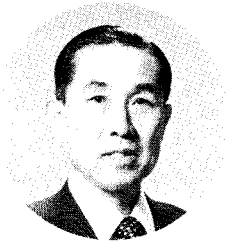


お祝いのことば



創立20年によせて

札幌市長 板垣 武 四

在札音楽家の皆様の親睦を図り、音楽文化を振興しようとの意欲で結ばれた札幌音楽家協議会が、創立20年を迎えられましたことを心からお喜び致します。併せて、20周年を銘して、中心的活動を続けてこられた創立メンバーによるコンサートが開かれ、円熟の境地に触れる機会が持てますことは、嬉しい限りであります。

この20年間、各種コンサートの開催、機関誌の発行をはじめとして、札幌音楽家協議会の旺盛な活動は、斯界の裾野拡大を促がし、市民文化の伸展に先導的な役割を果たして下さいました。その蓄積が、今日、市民文化充実の時を招来する大きな力となり、昨年来の教育文化会館の完成や市民コンサートの開催等、気運の盛りあがりと前進に結びついたことは、明らかであり、今年もなお青少年科学館、婦人文化センター、彫刻美術館等の文化施設建設に連なっていくものと存じまして、貴協議会20年のご努力に深く敬意を表します。

記念コンサートの盛会と、札幌音楽家協議会の益々のご活躍を期待してやみません。

ごあいさつ

情報社会といわれている今日的な観点からみれば、地道な創造活動よりは世間の反響を期待されるものが求められています。しかし音楽上のさまざまな問題は、歴史の大きな流れにつながるものと深くかかわっていますので、そのときどきの目立ったトピックだけを切りとって論ずるわけにはいきません。——高度経済成長の波にのった昭和30年代は、音楽界ではようやく専門教育が一般化の方向に向かい、高等教育機関も発展するなど、音楽人口の拡大が目立ちました。とりわけ札幌では市民オーケストラ設立運動が成熟期を迎えるなど、当時の音楽状況は清新の気風がみなぎっていました。そういうなかで札幌音楽家協議会は昭和36年（1961年）2月に設立をみたのです。一方オーケストラ設立運動の結実として誕生した札幌交響楽団も奇しくも同じ年でした。そのためでしょうか、ともすれば当会は札幌設立のために生まれた組織であるような印象が一部でもたれているようです。たしかに当会の活動の最初は札幌設立運動であったことは事実ですが、設立に至る過程には2・3年も前から在札音楽家有志の集りがありました。その中では音楽活動を支配する因襲的な人間関係や権威依存の姿勢という閉鎖的な問題が論議の中心を占めていました。札幌音楽家協議会はこの問題意識が動機となって設立をみたのです。

さて、音楽界は現在現象的には活況を呈しているものの「明日の社会」を予測することは途方もなく困難なことです。この混沌の時代、明日の社会に立ち向う姿勢が問われている今日、当会設立当時の理想追求の態度を思いかえしてみることも意義あることと思います。創立20年を迎えて開催される本日の音楽会が創立時のメンバーによって演奏されることは、そういう意味で象徴的です。この音楽会に寄せられた各方面からの御支援に深く感謝すると共に、本会に課せられた地域文化推進の使命の重さを強く感じております。

札幌音楽家協議会会長 横谷 瑛 司



創立当時を偲んで

(初代会長) 千葉 日出城

札幌音楽家協会創立20年を迎えられた事は誠に慶びに堪えません。之は生れたばかりの赤子が成年式を迎える迄の長い年月、其の間数限りない苦労や悩み又大きな喜びの積重ねによって1人前に育つもので此の会も何とか立派に育ってくれたものと今迄感じられるのであります。創立当時は未だ現在の様な音楽人口もありませんでしたが其の将来性は充分考えられ文化団体の一環として何とか音楽仲間一つにまとまったものを作る必要ありとの意図で一応私が推されて初代会長の役をお引受けし何かと戸惑いながらうぶ声を上げたのでした。当時音楽教育連盟理事長として多忙な仕事もあり市民劇場、新人演奏会、札幌設立等各方面で急に札幌も華々しい音楽活動が始まって参り毎日の様にあれこれ会議にかり出された記憶があります。20年記念を讃えると同時に多くの方々の御努力を感謝し益々御発展を祈念致します。



本会創立当時のメモより

(2代目会長) 工藤 健次

本会創立当時のことですが、設立準備のための集いが札幌市民会館食堂で持たれまして、その時、会の名称について「音楽家会議」と「音楽家協議会」の二案が出ました。どちらとも決めかねた末、挙手で採決し、後者と決ったようないきさつもありました。S37年6月25日、最初の総会(会長・千葉日出城)が開かれ、市民劇場運営委員・役員などが決り、又、新入会員募集の方法(新聞による告示)なども協議され、活動の第一歩を踏み出しました。38年6月21日の総会(会長・工藤健次)では、「市民劇場奨励賞」受賞の報告があり、39年2月14日の委員会では、会員の構成・資格に関して「門戸を広く開放すべし」とする意見と、「少数精鋭に限定すべし」とする意見が出され、生れ出ずる悩みでも申しましようか、深夜まで討論した事など、今は夢のような事となりました。本会の機関誌第1号が始めて会員に配布されましたのは、39年3月5日でありました。



創立20年にあたって

(アルト) 村井 満寿

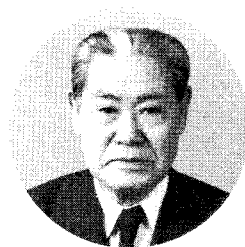
音楽家協議会が生れて20年、おめでとうございます。札幌に生れ育った私には、札幌の音楽界がこんなにも盛んに発展したのは、協議会の皆様の、一致協力した努力のたまものと、心から感謝してお祝い申し上げます。戦後昭和20年前後からは、東京方面からピアノ、声楽其他専門家がだんだん札幌に集ったおかげで、指導者も多くなり、若い人達が勉強する様になり、今では日本でも10本の指の中に入る音楽人口になりました。コンコルデの発刊と数多くの音楽の研究発表、新人の紹介、オペラ公演など、個人では仲々出来ない仕事を次々と発表して下さるのも協議会があってこそと思います。どうぞ今後益々努力されて、協議会の活動が益々盛んになり、日本一の音楽都市になります様お祈り致します。



戦後の音楽活動

(札幌音楽院院長) 荒谷 正雄

戦後札幌市が文化的に大きく転換したのは昭和34年から36年にかけてであった。文化会議(会長・市岡勝代)を始め、市民劇場がスタートをし、札幌交響楽団の設立も提唱されていた。音楽家協議会(現称)の創立も此の頃で発足のお手伝いをしたが、その後市の音楽発展に大きく寄与している事は関係各位の御努力の賜である。又その頃は北海道放送が芸術的に意欲を示した時代で、34年に札幌オペラ研究会と札幌音楽院管弦楽団が共演してオペラ「オルフォイス」全曲を本邦初演でテレビ放映し、翌年は市民劇場で再演をした。又36年には音楽家協議会によって札幌結成促進音楽会が2度も催された。随ってこれ等が札幌の結成に大きく拍車をかけたのである。当時のオペラ研究会は中々意欲的で、私は演出の山本晋氏(火露土)を中心に安齋ナナミ、伊藤志朗両氏を始め多くの人達が一丸となって研究熱心に創造して行く姿に意気投合し、共に創る喜びを味わった強い印象は未だに忘れられない。



御祝いの言葉

(北海道文化団体協議会会長) 九島 勝太郎

コンサート・コンコルデが創立されて早や20年を迎え、その記念演奏会が開催される運びになりました。この会を主催する札幌音楽家協議会の横谷瑛司会長が、札幌圏に居られる音楽家を鳩合して仲よく音の道に精進される意味から「コンコルデ」と云う名を付けられたと存じますが、まことに文字通り全員がコンコルダレーされていることに、心から敬意と尊敬の念を禁じ得ぬものがあります。こうした確固としたバックアップが二期会北海道支部の困難なオペラ運動へのさきとなり、ピアノ奏者も厚い支持層を得、ともに立派な活動を展開して市民や広く道民の情操の開発につくして居られます。この基礎の精神を大切に守りぬき乍ら、今後とも日本の文化なり世界の芸術に寄与する方々を贈ることを市民の皆様と共に希念してやみません。このたびの創立メンバーによる記念演奏会の成果を御期待申し上げると共々、各先生のいよいよの御健勝を心からお祈りして御祝辞とします。

PART 1

ソプラノ
藤 田 道 子

ピアノ
大 塚 夏 生

ビゼー アニュス デイ
グノー オペラ「ファウスト」より
 宝 石 の 歌

テノール
相 原 宗 和

ピアノ
熊 谷 玲 子

クルティス 狐 独
フッルボ 彼 の 人 に 告 げ て
チレア フェデリーコの嘆き

ピアノ
沼 田 元 一

シューマン 「3つのロマンス」 Op.28
 第2曲 嬰へ長調
ショパン 子守歌 Op.57 変ニ長調

ピアノ
遠 藤 道 子

ショパン ノクターン Op.32
 No.1 口長調
 No.2 変イ長調

ソプラノ
安 斎 奈々見

ピアノ
伊 藤 巖

モーツァルト 「フィガロの結婚」より
サァ、ひざついてちょうだい

♪ 「ドン・ジョヴァンニ」より
ぶってよ、マゼット、

♪ いとしい人、その痛み

♪ 「コシイ・ファントウツェ」より
娘が15になったら

バリトン
駒ヶ嶺 大 三

ピアノ
横 谷 瑛 司

平 井 康三郎 ふ る さ と の

信 時 潔 子 供 の 踊 り

♪ 丹 沢 の

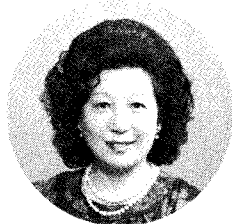
橋 本 国 彦 田 植 唄

ピアノ
熊 谷 玲 子

シューベルト 幻想曲“さすらい人”ハ長調
Op.15 D.760

出演者プロフィール

藤 田 道 子



武蔵野音楽大学卒業。昭和29年卒演、第98回、第338回、札幌市民劇場ジョイント・コンサート、昭和48年、49年、ラオス[国]でチャリティ・コンサート及びリサイタル出演。道内6市のジョイント及びリサイタル他。昭和55年第11回リサイタル札幌開催

大篠きみ、H・ヴァーハーベニツヒ、渡辺高之助、ウィーンでF・グロスマン各氏に師事。

現在、札幌大谷短期大学助教授。

教育大学特設音楽科非常勤講師。

G・むさしの会員、ゾリスTEN・りら主宰、札幌市民芸術祭新人部会委員。
NHK合唱コンクール北海道地区審査員、北海道青少年問題協議会委員。

大 塚 夏 生



北海道大学教育学部卒業

現在、北海道教育大学教授（音楽史専攻）札幌大谷短大講師

著書、「ドイツ音楽文化の源流」(カワイ出版)

「J・S・バッハへの道」(共同出版)

所属団体、日本音楽学会、新音楽集団「群」ほか。

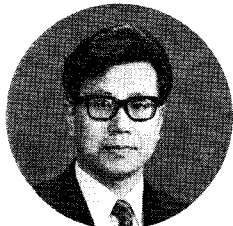
主要論文、Significance of Musical Experience

「音楽における音と無音」

「ドイツ・バロック音楽の基本想念」ほか十数篇

海外研修、ウィーン大学、ライプツィヒ大学、ベルリン芸術アカデミー、
ミュンヘン大学。

相 原 宗 和



東京芸術大学声楽科卒業。

昭和33年7月、市民会館完成記念音楽会に出演、以来多くの演奏会に出演する。

この間、昭和43年8月から翌44年7月にかけてローマのサンタ・チェチリア音楽院に留学。昭和55年には再度渡伊してイタリア現代歌曲の演奏法を研究する。

尚、著書として「音楽の概論」(音楽の友社)を、論文として「レスピーギとその歌曲」等5篇を著わす。

昭和51年度、札幌市民文化奨励賞を受賞。

現在、藤女子大学教授、札幌大谷短大講師、二期会北海道支部長、音楽学会会員。

沼 田 元 一



東京音楽学校(現、芸大)卒業。

東京音楽学校在学中、高折宮次・田村宏氏に師事。

北海道第三師範、学芸大学旭川分校、札幌北高を経て、

現在、教育大学札幌分校教授、

及び札幌大谷短期大学音楽科講師。

ショパン学生コンクール、

毎日学生ピアノコンクール審査員。

ショパン協会北海道支部理事。

遠 藤 道 子



昭和15年、東京音楽学校(現、芸大)卒業。

昭和28年~32年まで、北海道大学教育学部講師。

昭和34年より、教育大学特設音楽科非常勤講師。

現在、札幌大谷短期大学教授。北星園高校音楽科講師。

昭和53年、札幌市芸術賞受賞。

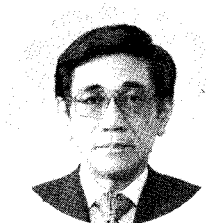
日本ショパン協会北海道支部長、札幌市民芸術祭新人部会委員、ショパン学生コンクール、毎日学生コンクール、STVコンクール等の審査員。

安 斎 奈々見



上野学園短期大学卒業。卒演、及び同短大新人紹介演奏会に出演。昭和32年札幌市新人演奏会に出演。以来札幌を中心にリサイタル、NHK、HBC、札幌市等の記念行事（メサイヤ、戴冠ミサ、レクイエム、大地わが歌等）に出演。又、オペラ研究会（泥棒とオールドミス、オルフォイス、手古奈、奥様女中、ヘンゼルとグレーテル）二期会道支部（フィガロの結婚、マイフェアレディー、あまんじゃくとうりこひめ、有福詩人、修禪寺物語、魔笛、他、歌曲シリーズ等）の会員として幅広く活躍。渡部道三郎、村井満寿、平井美奈、池田智恵子、三宅春恵、中山悌一の諸氏に師事。日本声楽発声学会、恵声会、緑声会、二期会道支部会員。静修高校、札幌道立西高校の講師を経て、現在成徳音楽院講師札幌大谷短期大学助教授。昭和52年札幌市文化奨励賞受賞。

伊 藤 巖

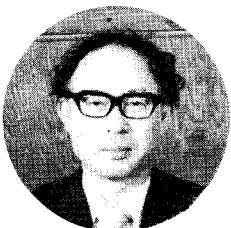


昭和29年、北海道大学教育学部卒業。
筒井秀武、高折宮次、両氏に師事。

第1回新人演奏会、北海道大学交響楽団復活定期演奏会、市民劇場「名曲の夕べ」、現代日本音楽の夕べ、ピアノトリオ。二期会オペラ「泥棒とオールドミス」等の伴奏……その他。

札幌大谷短期大学教授。ショパン協会北海道支部理事。札幌音楽家協議会代表委員。毎日学生ピアノ・コンクール、ショパン学生ピアノコンクール、STVコンクール等の審査員。札幌市民芸術祭新人部会委員。

駒ヶ嶺 大 三



札幌市出身。昭和23年、東京音楽学校（現、芸大）卒業。
千葉日出城、中山悌一氏に師事。

昭和23年〈ヴォルフ〉、昭和24年〈冬の旅〉等リサイタル7回、その他NHK全国放送等。著書〈音楽を理解する為に〉（音楽科教育法）。

日本声楽発声学会・日本音楽教育学会前常任理事、
現在、北海道教育大学教授、同附属小・中学校長。札幌市民芸術祭新人部会委員。NHK合唱コンクール北海道地区審査員。二期会道支部顧問。

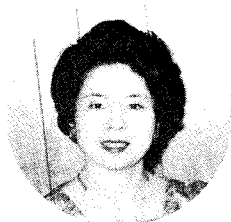
横 谷 瑛 司



昭和19年、東京音楽学校（現芸大）千葉日出城氏、今井治郎氏に師事。昭和27年、NHK札幌放送交響楽団定期演奏会出演。昭和35年、札幌交響楽団定演にてピアノ協奏曲演奏。昭和36年、札幌市民劇場奨励賞受賞。昭和37年、ジョイント・リサイタル開催。昭和38年、札幌市民劇場ジョイント・リサイタル開催、ヨーロッパ音楽研究のため渡欧。昭和42年。第5回リサイタル。

ピアノ演奏のほか「音楽教育研究」「教育音楽」（音楽之友社）等に執筆。昭和52年翻訳出版「ピアノ運指法」（ジュリアン・ムサイア著）—全音楽譜出版社—現在、北海道教育大学特設音楽科教授、札幌音楽家協議会会長、札幌大谷短大講師、札幌市民芸術祭実行委員、日本ショパン協会北海道支部理事、NHK合唱コンクール、ショパン学生コンクール、毎日ピアノ・コンクール、STVピアノ・コンクール、北海道合奏コンクールなどの各審査員。昭和55年、札幌市芸術賞受賞。

熊 谷 玲 子



東京芸術大学卒業。
福井直俊、田村宏、ハンス・カン氏他多くの教授に師事。

在学中、酒井弘氏とジョイントコンサート。演奏活動としては札幌を中心に各地でのピアノリサイタル、第71回市民劇場、チェンバロを含む各交響楽団のソリストとしての協演、第14回札幌定期など。来日音楽家との協演。室内楽、伴奏のステージ、TV、放送など行う。その間、欧米研修、講演会、音楽誌の発表する。現在、大谷短大助教授、教育大非常勤講師、北星高校音楽科講師。ショパン学生コンクール、毎日学生コンクール、STVコンクール等の審査員、ショパン協会道支部理事。札幌市民芸術祭新人部会、札幌市役所ロビーコンサート委員。

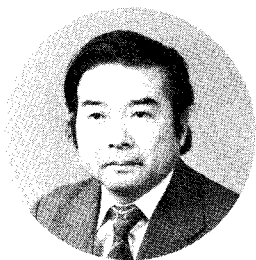
青 木 恵美子



市民会館の衝立で仕切られた食堂の一隅で、札幌市の音楽家として名をなす20数人の方達による「音楽家の組織団体結成の為の会」に、村井満寿先生、工藤健次先生の御推薦を受け、若輩の私も緊張し乍ら参加させて頂いたのは、20年前の出来事というより、つい5・6年前の事の様に思われます。その間に、札幌、教育大特音、大谷短大等の誕生を見るに及び、札幌も名実共に文化都市として長足の進歩を遂げました。その中にあって、音楽家協議会が札幌市の文化向上の一端を荷担って来た事は云う迄ありません。20年を機に、更に充実した団体として発展を見る為にも「密度の濃い演奏活動」と聴衆の方達の音楽に対する「心と耳」を持った「するどい批判」こそが、今後の期待と云えるのではないのでしょうか。協議会員の皆様の認識と札幌市民の皆様の御声援を切にお願い致します。

(ソプラノ・北星高校音楽科講師)

伊 藤 竜 朗

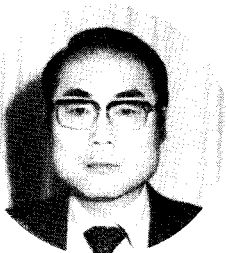


私の記憶が正しければ、20年前、4丁目「にしりん」(現在4プラ)の二階で音楽家協議会の第1回目の会議が持たれた。出席者は15名前後だったと思う。当時札幌で音楽活動をしていた人の数はごく少なく、音楽家相互の交流も殆んどなかった。そんな中で、「音楽家相互の交流を深め、民主的な雰囲気の中で意見交換を行い、相互に研磨し、さらには後進のために良い精神風土を創るべく」組織されたのである。そしてわれわれが第1に取り組んだ問題が、市民のオーケストラ「札幌」の結成、ということだった。

爾来20年、会の活動も年々充実をみせ、会員数も百数十名という大所帯に発展している。誠にご同慶の至りである。「20周年記念演奏会」のご盛会と、会の益々の発展を祈念しています。

(バリトン・市立新琴似北中学校教諭)

今 井 康 利



義務教育の現場に入り、演奏家でも、研究者でもない私が、音楽家、協議会加入への呼びかけを受け、いささかならずちゅうちょするものを覚えたのを思い出します。しかし協議会設立の趣旨が、単に演奏活動にとどまらず、より広い音楽活動としての視野からのものであり、学校教育や社会教育(当時成人学校や労音の合唱講座等をさせていたでいた)の立場からも加入せよという友人からのすすめもあり参加させていただきました。札幌に生まれ育った私にとって、人間関係への魅力もあったように思います。以来、委員会、レクリエーション等さまざまな場面を通しての諸先生との交りは、私の教育活動の上でも有形無形の大きな力となり支えになったように思います。

いずれも私の青春時代からの師であり、先輩であり、又友人である方々が出演参加される今宵のコンサートは、まこと私にとって感慨深いものになることでしょう。

(教育・市立元町中学校教諭)

大 竹 禎 子



札幌音楽家協議会が発足して早や20年の月日が経ち20周年記念演奏会が催されますことは、年々地味ながら札幌の音楽文化活動の一端として着実に歩んでまいりました賜物と存じ心から喜ばしいことでございます。当時、音楽の生んだ音楽大学卒業生が個人プレーになりがちな音楽界に和の精神のもとに強力な基盤をつくり札幌の音楽文化を啓蒙していこうと会合をもちました。現在4丁目プラザの一角にありました喫茶店「西林」で10数名の諸先生が集まり会の名称づくりからはじまりました。色々な名称の案が練られる中で公共性を考え現在の「札幌音楽家協議会」に決まりました。度々の会合はこれからの未知に向ってそして希望に燃えた心で札幌の音楽文化発展のため寄与する会である自覚が強く活発な意見が飛び交うこと屢々でございました。これからの地球時代において音楽芸術を創造し益々国際の場で活躍される会員が増え、札幌音楽家協議会が発展することを望みます。

(ピアノ・ショパン協会道支部理事)

加藤 けん三



全国でも珍しい音楽家の集団が、20年もの歳月を重ねて生々発展してきたことは、これまた珍しいことです。とかく一匹狼になりがちな人達が仲間意識をもって寄り合ったことが良かったのでしょう。これが同志意識の集団であつたらうはいかなかったことと思います。それにしても会員の自由な考えかたやアイデアをよくまとめて、柔軟性のある活動が続けるように仕向けてこられた、工藤健次前会長、横谷瑛司現会長に敬意を表します。

今や札幌が全国に誇り得る存在となっているように、音楽家協議会の活動が札幌ならではの方向に発展することを期待しています。何といつてもすぐれた音楽家が、札幌に定着することが大切です。協議会がそれを受け入れる大きな器になりつつあることを喜んでいます。

(作曲・北海道女子短大教授)

川 越 守



札幌協が20年を迎える。そして、平和の続く限りこの会は、中断することなく、今後も続けられていく。要するに、会員一人一人が各自で何をやるべきかを見つけ実行さえすれば良いのである。

会としての方向はどうか。今後ますます音楽の世界は多様化するだろう。それらにどのように対応すべきか。音楽家の定義。今日あらゆるものが音楽とよばれ、コンサートが氾濫している。音楽会の内容も旧態依然で良いわけもない。なにを聴衆にアピール出来るのか。社会の情勢と音楽教育の問題点。たとえば我々の新しい作品についての態度。なんの役にもたたないと生徒にいわれる学校音楽、etc.……。これを契機に協議会での全体討議と実践があるべき。

回想文ということであったが、なにも浮かばず、今後の課題を提起した。

(作曲・北大交響楽団指揮者)

瀬 川 良 弘

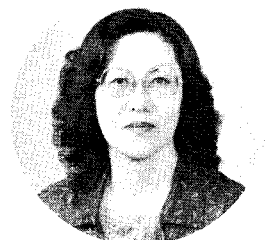


昭和33年市民会館が完成し、34年市民劇場が発足した。運営委員として、洋楽関係では荒谷正雄・千葉日出城両氏のほかに山本善(札幌オペラ研究会代表)・瀬川良弘(札幌合唱連盟代表)が任命された。個人の洋楽関係者代表の選出母体を作る必要が生じた。34・4・1札幌演奏家の集い(仮称)が召集され、音楽家連盟が発足した。この時の名簿は約30名を含む。世話人・山本善による6・2、9・4、10・2、12・12、35・10・4、11・1、36・1・11と会合の通知が私の手許にある。

36・2・7の会合で現在の音楽家協議会が発足した。会員の資格をどのように決めるかが大問題だったようだ。結局今のような開放的・民主的な方向に落着いた。私も、めくら蛇におじずで、老先生方に対して若干発言したような気がする。そんなこともあって、私も会員に加えて戴き、現在に及んでいるわけである。

(合唱指揮・道教育大学教授)

谷 本 美智子



札幌音楽家協議会という正式な名称になる前に、たしか運営協議会(?)とかいう名称を使っていたように記憶して居ります。

当時、音楽家の活動が個人的な枠をこえてより多くの人の協力を必要とするような方向(オペラ研究会の活動などに象徴されていまして)にあった事や、市や道の文化行政が新人演奏会・市民劇場を主導して行うため意見の聴取や協力を求める相手を必要としたことなどが背景になって、音楽家の公的な集りを組織する必要からかたまつていったように思います。しかし札幌市の音楽家にとっては始めてのことであり、云い出した仲間うちの結束もさることながらいろいろ世代間の意見の調整など……大変なことでした。

それにしましても、わづか14.5人が集まるかどうかというような会を積みかさねていましてのがこのような大きな会になり感無量の想いがします。

(ピアノ・大谷短大講師)